

伸身の新月面が描く放物線は栄光への架橋だ！ by アテネ五輪

12月2日(金)、保健体育科の棚原淳司先生が授業を公開しました(2年9組)。本時は淳司先生による、「やる気を引き出す言葉かけ」や「分かりやすい指示」、「実演を披露」するコーチングが光っていました。また、生徒同士で良かった所と改善点を共有する場面を設定することで、生徒はそのポイントを意識して練習に励み、短い時間でも、生徒がどんどん上手くなっていく姿が、見て良くわかりました。



あいさつ(心の準備)

- マットの準備 • 始めのあいさつ • 健康観察

準備運動(体の準備)

2列になり3周 → 準備運動 → 補強① → 補強②

基礎感覚運動(主運動につながる類似運動)

本時の器械運動につながるように、首倒立やタンプリングローリング等の基礎感覚運動を通して、ウォーミングアップを行った(右図)。



活動1【器械運動系:基本技の習得】

活動2【器械運動系:発展技の習得】

生徒は、自分の満足のいく連続技を完成させるという、本時の目標を達成させるため、仲間の連続技を見て、良かった所と改善点を伝え合う活動を通して、仲間の指摘を意識して、「技と技のつながりが滑らか」になるように工夫し、無我夢中に器械運動になって、器械運動を楽しんでいました。



まとめ

【Yさんの振り返り】

Nさんに、開脚前転をキレイにできるようにアドバイスもらって、うまくなりました！

振り返り



導入

展開

終末

図1 本時の授業×保健体育科における「問い」が生まれる授業のポイント(問いサポP.30)



日本海軍の名将・山本五十六が残した「やってみせ、言って聞かせて、させてみせ、ほめてやらねば、人は動かじ」は、私たち教師が大切にしたい言葉かもしれません。この言葉は、コーチングのすべてが凝縮されていると思います。まずは自分の行動で「やってみせる」ことで説得力を持たせ、それをきちんと言語化して「言って聞かせ」、チームメンバー自身にそれを「させて」、うまくいけば「褒める」というプロセスを経てチームを動かす。基本的な「コーチング力」を再確認できる至言です。